

第6回 コールドチェーン物流サービス規格（JSA-S1004）に関する普及検討委員会
議事要旨

1. 日 時

2022年3月10日（木）14:00～16:00

2. 開催形式

WEB 会議

3. 議事要旨

(1) マレーシアにおけるアクションプランの取組状況について

- ・事務局より、2022年1月に実施した二国間政策対話や同年2月に開催したコールドチェーン普及啓発セミナーの結果を報告したほか、マレーシアにおいて同年2月～3月にかけて実施中のコールドチェーン物流に関するパイロット事業の進捗状況について説明を行った。
- ・事務局より、マレーシアにおける規格の認証体制の整備及び相互承認制度のあり方に関する調査の結果報告を行った。

(2) インドネシア及びタイにおけるアクションプラン策定に係る調査、アクションプラン案について

事務局より、前回（第5回）から追加で実施したインドネシア及びタイの物流事業者に対するヒアリング調査の結果報告を行うとともに、両国におけるアクションプラン案について説明を行った。

(3) 意見交換

委員からは、主に以下のような発言があった。

- JSA-S1004 の認証取得を促進するためには、BRC 等の食品安全規格のように、荷主が要求する基準として扱ってもらえるよう、荷主に対し JSA-S1004 の必要性を理解してもらうことが重要である。
- 物流事業者は、規格の認証取得の是非を検討するにあたり、導入コストに見合うビジネス上の成果を得られるのかという点を最重要視する。JSA-S1004 の認証を取得すると、新規顧客の獲得や競合他社との差別化に必ず繋がると効果的にアピールしていくことが重要ではないか。
- ISO23412 の策定に向けた議論において、インドネシアコールドチェーン協会は非常に協力的であったと認識している。インドネシアで規格の普及を進めていく上では、インドネシアコールドチェーン協会など、コールドチェーンの取組に積極的なプレーヤーと連携して取組を進めていくことが有益ではないか。
- インドネシアにおいては、コールドチェーン協会が積極的であることから、同協会と連携を

図ることにより、効果的に普及を進めることができるのではないか。

- 2024年12月を目処に JSA-S1004 をベースとする ISO 規格が策定される見込みである一方、マレーシアの国家規格化は 2025 年までに行われる予定と承知。同じようなタイミングで複数の規格が策定される予定のため、関係者の混乱を招かないよう、これらの規格の関係性を整理していくことが重要になってくるのではないか。
- JSA-S1004 と Q Cold Chain はともに「日 ASEAN コールドチェーン物流ガイドライン」をベースとしており、今後の JSA-S1004 の ISO 化の動きを踏まえると、Q Cold Chain の認証取得者が JSA-S1004 の認証を取得する可能性も想定されることから、タイにおいても相互承認制度の構築の可能性について議論する必要があるのではないか。
- 現在、郵船ロジスティクス株式会社のマレーシア現地法人が JSA-S1004 の認証取得に向け審査を受けており、本年 2 月に書類審査が終了したところ。6 月中には実地審査を受ける予定である。

【今後の予定】

- インドネシア及びタイにおけるアクションプランの最終とりまとめについては、森座長一任とされ、今月中に公表する運びとなった。

以上